



6.10 民主抗争記念 朝鮮半島平和マラソン

韓国民主化への道を ピースラン

2018年6月10日、新日本スポーツ連盟と友好関係にある市民スポーツ団体、韓国体育市民連帯の主催で「第4回反戦・反核・平和マラソン」が行われました。このイベントに、新日本スポーツ連盟関係者9名の有志が参加し、ソウル市内(約13km)をアピールラン。現地の役員含め約40名の平和を願うメンバーが2時間30分をかけて反核・平和を訴えました。



スポーツ連盟代表団 (丸数字は参加回数)

左から

- 橋本静修 (RUNNERS 9の会)④
- 大野光治 (横浜市立大学楽走会)①
- 磯部津輝子 (神奈川県勤労者山岳連盟)③ ※中段
- 橋俊也 (月例湘南マラソン)①
- 山下紀子 (登山女子ランナーズ)③
- 北出祥夫 (全国ランニングセンター)① ※後列
- 佐藤好行 (スポーツ連盟国際活動局)④ ※前列
- 園生一行 (全国ランニングセンター・団長)③
- 長田義人 (横浜市立大学楽走会)①

7 年前に始まった韓国の反戦・反核平和マラソンは、今年で4回目。2年に1回の大会ですが、常にテーマをもって開催されています。

第1回は、2011年「反戦・反核・平和のための500km国土横断マラソン」で、釜山(プサン)から臨津閣(イムジンカク)まで。

第2回は、13年の「反戦・反核・平和マラソン」で、老斤里(ノグンリ)から臨津閣まで。ノグンリは、朝鮮戦争で地元農民が米軍の凶弾を浴びたという事件が起きた場所です。

第3回は、16年の「記憶と連帯に向けた平和マラソン」で、広州(クアンジュ)分かち合いの家から鍾路(チヨンノ)少女像まで。かつて日本軍「慰安婦」制度の被害にあったハルモニたちが共同生活をしている場所から出発しました。

そして今回は、「6・10民主抗争記念日」を迎えてパク・ジョンチョル氏の母校のソウル大学がスタート地点。彼が息を引き取ったナムヨンドン対共分室を経て、16、17年に韓国大統領退陣要求デモ「ろうそく集会」が行われたソウル市役所広場まで走りました。

戦後 韓国の民主化運動

3つの民衆の戦いと勝利

- 1945.8.15 日本敗戦（解放）
- 1948-60 李承晩政権
- 1960.4.19 **四月革命**
- 1961.5.16 朴正熙クーデター
- 1979.10.26 朴正熙暗殺
- 1980.5.18 光州事件
- 1980-87 斗煥政権
- 1987.6.10 **6月抗争**
- 2016 冬 **朴槿恵退陣要求デモ**
(ろうそく集会)

パク・ジョンチョル氏 拷問死事件

1987年1月14日、ソウル大学学生で民主化運動をしていたパク・ジョンチョル氏が参考人陳述を名目に連行され、南営洞対共分室で暴行と電気拷問、水拷問にあつて死亡した。この事件は同年5月18日、明洞聖堂で行われた「5・18光州民主化運動記念ミサ」で真相が暴露され、6月抗争の起爆剤となった。こうした韓国民主化抗争を題材にした映画「1987」が、2017年韓国で公開されている。



南営洞対共分室（パク・ジョンチョル記念館）



①ゴール地点ソウル市役所広場にて ②団長・園生一行さん
③笑顔でラン ④無事ゴール

ちようど韓国体育市民連帯と韓国政府が目指した韓半島非核化と平和が実現しようとしている時期。地方選挙などの影響で、一度は中止という話がありました。キム・ドクチンさん（韓国体育市民連帯・共同代表）の努力で、規模は縮小しつつも実施することになりました。

第4回のテーマは「韓国の民主化への道」。6月9日は西大門刑務所を見学しました。戦前日本の憲兵・警察が韓国の独立運動をした人たちを拷問・虐殺した所です。トゲのある檻に入れられ、それをゆすられる。立つ状態の檻に入れられる。どれほど残酷なことをしたのか…。

その後、ナムヨンドン対共分室を

見学しました。87年1月14日、韓国の民主化を求めたパク・ジョンチョル氏ここで暴行と拷問に遭い死亡しました。この事件が公になると、大きな民主化運動となって、独裁政権が終わるのです。それが、民主抗争記念日のランでした。

今回も空港に着くと、出迎えてくれてホテルへ。みんなが集う食事会へのご招待。宿泊地のソウル大学ゲストルームもすごくよかったです。久々に会った韓国体育市民連帯の人たち。特に、15年広島く長崎反核平和マラソンに韓国から参加したアン・ペヒョンさん（大学院生）に会い、韓国体育市民連帯で走っていることを知って嬉しかったですね。

今回、「36年前に大阪で始まった反核平和マラソンが、韓国にも渡った」ことを伝えることができました。その第1回反核平和マラソンから参加している北出祥夫さんを紹介できて良かったです。

世界に広がる反核平和マラソン、核兵器禁止条約の採択、韓半島非核化：運動は進んでいます。核廃絶まで頑張りましょう。（全国ランニングセンター・園生一行）



橋本静修さん
(スポーツ連盟国際活動局)

5月に走った距離はたったの22km、とケタ違いに少なかつたのです。ソウルでの13kmを走りきれるかの不安を抱えつつも、佐藤好行さんをはじめご一緒した8人の方々とも楽しく充実した意義深いものになりました。また、韓国の方々との再交流も素晴らしいものでした。なによりもキム・ドクチンさんの熱意により開催にこぎつけた今回のイベント。反戦反核平和マラソンを継続することの大切さを教えられました。

事前に準備した数曲の歌を、日韓の皆さんと一緒に響かせ心をつなげる機会は持てませんでした。自分なりに意識的に良い雰囲気を作れたと自負しています。橘さんの笑顔と機敏な力メラワークがとても印象に残っています。カムサハムニダ！



佐藤好行さん
(スポーツ連盟国際活動局)

朴ヘスクさん(体育市民連帯事務局長・写真右)は、6・10民主化抗争の契機となったソウル大学生拷問死の現場などを案内してくれました。

彼女の得意スポーツは韓国弓道。ソウルの弓道場で体育市民連帯のナ・ヨンイル教授に声をかけられたのが職員になった契機だそうです。

ご主人は日中韓の共同歴史教材を出版するプロジェクトのメンバーで今、3冊めの出版を準備中。今年4年目となる事務局長はフォーラム、執筆講座、記者会見、声明発表など様々な活動をしてきた中で、一番印象深いのが反戦反核平和マラソンだそうです。彼女の一言、「国境を越えて民主と平和のためのマラソンに参加された皆さん、本当に素晴らしいです」



橘俊也さん
(月例湘南マラソン)

初初めての韓国渡航と異国間ランナー交流。以前より外国の方とのランニング文化の共有を望んでいました。かつてより韓国は映画やドラマを通じ、とても行きたい所でもありました。その反面、韓国語が話せないのが現地の方との交流できるか不安もありました。

ところが、実際に参加して、言葉でなく平和という共通願望を通じて走るにより、徐々に韓国と日本の一体感が増えていくのが体感できました。

気温も高く、高低差のある道を走ったのにもかかわらず、体育市民連帯スタッフの素晴らしいサポートで、皆さんが笑顔でゴールしました。次回参加できれば、韓国語を勉強し、さらに交流を深めていきたいです。



大野光治さん
(横浜市立大学楽走会)

スタート前は、全員で「民主抗争記念韓半島平和マラソン宣言文」を大きな声で韓国語と日本語でアピールしました。

宣言文から(一部引用)「統一は双方が共存共栄しながら民族共同体を回復していく過程です。統一は平和が定着すれば、いつか南北間の合意によって自然に行われることです。私たちが韓国政府が実現しようとするのは平和です。奇跡のように平昌オリンピックで育て上げた平和の誘い水で、70年間分断されていた朝鮮半島が徐々に解けていきます。(以下略)」

今回の趣旨や、色々と現地の方々にお世話になりました。特にキム・ドクチンさん！日本からの参加の皆さんに感謝です。今後も、世界の平和を祈ります。

第

1回と3回、そして今年(19年前)に民主化闘争が始まった6月10日の第4回に参加することができました。

治安当局の拷問によって死亡した学生のソウル大学からソウル市庁舎までの12・5kmは、今の私の体力などを考えると長い距離ですが、このマラソンに魅力があると思ひ、参加を決めました。年齢に伴う体力の限界を感じながらも、私にできることのひとつ、走ることを通して、反戦、平和への思いを表すことができました。

今回一緒に走ったのは市内の一般の走る会の方たち2チームと日本から参加の私たち、総勢30名程でしょうか。韓国の方たちと反戦平和の思いをアピールしながら走ることは、地味な取り組みではありますが、長く続けることで私たちの思いが広く、深く伝わっていくことを願っています。



山下紀子さん
(登山女子ランナース)



磯部津輝子さん
(登山女子ランナース)

こ

の平和マラソンはいつもテーマがあるので「国や人たちの歴史や思いを理解できるのがとても良い」と毎回思っている。軍事政権下の87年、民主化運動の象徴となったソウル大学生のパク・ジョン Chol 氏の拷問死を悼むというのが今回のテーマ。この民主化運動の中に、キーパーソンのキム・ドクチンさんの若き姿があったことを知らされ、感慨をもって走らせてもらった。

現在、さらに民主化が進み、平和に向かって進む韓国を走るのは、時代を走ることであった。朝鮮半島が統一した暁には、ソウルからピョンヤンまで走ろうという話まで出て、「それまで走っていたいなあ」と切実に思ひ、「アジアの平和はそのまま日本の平和である」と身近に感じたランであった。

今

回は、平和学習とランニングが合わさった、私にとっては最高の企画でした。これは、私が十数年来参加している「広島長崎反核平和マラソン」に、体育市民連帯の方々が招待され「韓国でも同様の取り組みがしたい」と語っていたものが実現された催しです。そんなことから韓国の仲間が主催する反戦平和マラソンを体感したいと強く思っていました。

私たち反核平和マラソンは、地球上から核兵器をなくすために、走ることが大好きな人々が集まり、走り続けられる環境を守るため、その最大の環境破壊である、核兵器廃絶、平和を訴え活動しています。完全な非核化と平和に至る道は決して平坦ではありませんが、体育市民連帯と共同で、広島長崎プサンソウルピョンヤンまでの反戦・反核・平和マラソンを実現するのが夢です。



北出祥夫さん
(全国ランニングセンター)

韓

国は初めてでしたが、皆さんのお陰で楽しく有意義に過ごせました。韓国人との交流や日本からの参加者のまわりなどが大事であることがわかりました。刑務所や取調室を見学し、広さと狭さにビックリ。平和マラソンコースは約13kmを2時間20分で走り、伴走車に衣服を預けることができ助けられました。車道は車が多く、歩道は狭く混乱しました。

本来なら私は参加する資格はないのですが、大野光治さんの誘いで参加しました。なぜなら私は一度も平和マラソンに参加していないからです。今後は是非参加したい。4日間を振り返って、地下鉄の乗り換えや切符購入などに時間がかかり、ゆとりがなかったのが残念。夕方からのソウル市内の屋台の多さと迫力には圧倒されました。



長田義人さん
(横浜市立大学楽走会)